

### 40人体制で被災地ボランティア

全国清掃事業連合会

全国清掃事業連合会

(三井炭裕会長)は、

東日本大震災で津波被害を受けた本県沿岸部で、ボランティア作業を展開している。4月下旬から、大槌町や宮古市、山田町で、民有地などががれき撤去を支援。約40人体制で手の回りきらない被災現場に入り、復旧作業をサポートしている。

同連合会は、全国の一般廃棄物処理業者で構成。今回のボランティアでは、会員を二次隊と二次隊に分けて派

遣。両隊とも約40人で組織した。作業期間は一次隊が4月28日から5月2日まで、二次隊は6日から14日までの予定で進めている。

作業に伴い、会員各社が廃棄物運搬業務で使用しているタンクも投入。広島や鳥取、遠くは福岡からも車両を持ち寄り、一次隊では15台、二次隊は14台を使用し作業を推進。現地の宿泊施設は満杯のため、盛岡市内のホテルから通いながら、活動していった。

作業は、地元企業のリアス観光からの紹介や、地域住民からの要望を受けた個所で実



宮古市鉾ヶ崎で、がれきを撤去する会員ら

施。大槌町の吉里吉里、花輪田、桜木町地区、山田町の漁港周辺、宮古市の鉾ヶ崎地区で、

民有地のがれき処理を展開していった。このうち、宮古市の鉾ヶ崎では、回船問屋

を営む山智商店の山口勝之社長から依頼を受け、被災した店舗兼家屋のがれきを11日から撤去。建物のあった約250平方メートルの敷地には、廃材などが山になつており、会員らは重機や手作業で、持ち寄ったタンクに積んでいた。

作業を依頼した山口社長は、「宮古市では先月11日から魚市場が再開。港への船の出入りも始まるので、早期に営業を開始したいと思っていた。店舗跡地に仮事務所を建てる予定だったので、今回の支援はとても助かる」と感謝していた。

### 大槌でがれき撤去奉仕活動

全国清掃事業連

一般廃棄物処理の業界団体、全国清掃事業連合会(全清連)の災害救援隊が大槌町内を中心にながれき撤去のボランティア活動に従事している。

12日は同町桜木町で作業を行い、住宅街の復旧に汗を流した。道路脇に積み上げられた廃棄物をバックホーで車両に積み込み、町内の一時保管所に輸送した。

救援隊は西日本の事業者を中心にした40



住宅地のがれきを撤去する全国清掃事業連合会のボランティア人。コンテナ車14台で被災地入りした。第2陣となる今回は、14日までの9日間活動する。

~~~~~  
広島市から駆け付けた全清連の三井弘樹理事は「全国から土気の高い仲間が集まった。微々たる力にしかならないが少しでも早く復興してほしい」と願いを込める。